

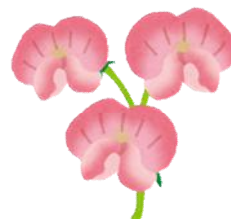


『自他共に尊重し、逞しい心をもって、自ら考え、行動する集団に』 ～ チーム36期 ～

36期生291名の3年間の高校生活が始まりました。人との関わりや集団生活の中で、自他共に尊重し、互いに信頼できるように、一人ひとりが責任ある行動をしてください。高校生活の中では様々な困難や、より努力を要する場面もありますが、前向きに、積極的に、逞しい心を持って乗り越えていきましょう。大人として社会に旅立つまでの最後の3年間です。社会に出て活躍、貢献できる人となるよう、視野を広げ、自らの責任で行動する高校生活を送ってください。

(宝田)

クラス紹介



学年生徒総数291名 (男子198名 女子93名)

| 組 | 担任 | 教科 | 研究日 | 副担任 | 教科 | 研究日 |
|---|-------|----|-----|-------|----|-----|
| 1 | 石井沖親 | 国語 | 木 | 山田将史 | 理科 | 水 |
| 2 | 廣嶋伸道 | 社会 | 水 | 尾形祐紀子 | 社会 | 木 |
| 3 | 古宇田大介 | 数学 | 水 | 江森清 | 美術 | 金 |
| 4 | 佐藤栄一 | 英語 | 金 | 小暮真弓 | 英語 | 水 |
| 5 | 大村俊樹 | 数学 | 金 | 五十嵐謙一 | 数学 | 木 |
| 6 | 坂倉弘子 | 音楽 | 木 | 宝田敏博 | 理科 | 水 |
| 7 | 堀端慎一 | 体育 | 金 | 尾形祐紀子 | 社会 | 木 |

学習の流れ

高校に入学し、学習に対する不安は最も大きいのではないかと思います。まず、最も重要な点は、「時間を効率的に使う」ことです。すなわち、目的は「理解する」ことであり、「量をこなす」ことや一定の「時間を費やす」はその手段の一つでしかありませんし、かならずしも必要とされるものでもありません。

クラブ活動、学校行事・学習だけでなく、すべての面で中学校時代より本格的になってくる高校生活では、時間がいくらあっても足りなく感じるでしょう。したがって、「時間を効果的に使う」ためには何より「目的意識」「モチベーション」をもつことが大切になってきます。

「時間を効果的に使う」学習において不可欠なのが「授業」です。学校であれ、また塾・予備校であれ、授業が「説明を聞く」・「ノートに写す」場となっているようでは、時間はいくらあってもたりません。その授業の内容を「理解」するよう努力することが大事です。具体的にはいくつかのノウハウとして提示することができますが、どのような手段を用いるとしても、実行には一人一人が「意識」をもつてのそまなければ、達成はできません。

高校の多岐にわたる学習において、授業と同様に家庭学習もまた不可欠な要素です。しかし、忙しい高校生活では、まとまった学習時間を確保することが難しいのも事実です。ここでも時間を効果的に使えるかが問われるわけで、朝のHR前や

休み時間、登下校の車内といった「隙間の時間」を使えるかが、学習の工夫のポイントになります。家庭においても、登校までの15分、夕食までの15分、見たいテレビが始まるまでの10分など、隙間の時間はたくさんあります。こうした時間の積み重ねで、学習時間を確保することが求められます。しかしながら、「意識」がなければ、このような時間が使いこなせません。

「意識」という点に関して、新しい出会いに満ちた今ほど、やる気に満ちていることはありません。「高1の中間試験の成績が3年間の成績になる」というようなことをすでにお話しましたが、「高1の中間試験の成績は、4月の授業の受け方で決まる」といっても過言ではありません。そして「4月の授業の受け方は、教材の準備で決まる」のです。ノートや、鉛筆、マーカー、プリントのファイルやパンチ、英単語のリストを作るためのノートや、付箋、テキストや問題集にしたところで、書き込むこと、コピーしてノートに貼ることなどを考えれば本当に1冊でいいのか、2冊持っているのも一つの作戦です。本校では「学習の手引」というシラバスに授業に必要なものが挙げられていますが、それ以外にも、準備すべきものがたくさんあるのです。

もちろん、いくら必要だと「意識」していても、忘れることは人間にはあります。しかし、そのうっかりも大きなつまずきへの序章になります。無意識の小さな失敗が、3年にわたる大きな失敗につながりかねません。とすれば、「教材の準備は」何で決まるのでしょうか。

その小さな失敗を極力おさえるものは「手帳」です。さかのぼって具現化していくとどうも手帳を使うことが成功への第一歩ということになりそうです。いえ、もしかすると、「手帳によって3年間の成績が決まる」のかもかもしれません。したがって、今後も手帳指導を継続して参ります。本格的な受験勉強がスタートする高校2年生の夏までに、手帳指導を徹底したいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

模擬試験

学校授業日に全員で受験するのが、河合塾とベネッセの模試が2回ずつ、駿台のハイレベル模試が1回です。そのほか、駿台のハイレベル模試を希望者向けに年2回、河合塾のハイレベル記述模試を1回実施します。これらのハイレベル模試は「日帝大、早慶」あたりをターゲットにしています。合格実績は別にして多くの生徒がこれらの大学への進学を希望することを考えると、全員がハイレベル模試の対象者とも言えます。希望しながら、こうした模試を難しいこと、点数が取れないことを理由に回避するのは、練習なしに本番に臨むようなものです。こうした大学を希望するのであれば、クラブの試合などであればともかく、難易度を理由に回避してはいけません。

また、「模試は受けっぱなしにするのでは意味がない」という人がいますが、これは明らかに間違いです。なぜなら、模試を受けている間、難しい問題に対して「タイムプレッシャー」の中で、答えを出そうと目がくからずです。こうした学習を自習で行えれば理想的ですが、そういう強い生徒はそうはいないのが実情です。となると、模試は受けるだけでも、1日3時間程度集中して学習した時間に相当する効果があるのです。もちろん、受けっぱなしにしないともっとよいのは言うまでもありませんが。

英検・漢検などは資格としては、大学受験にはあまり意味がありません。しかし、英検がセンター試験の準備になるように、学習した中身は直接的間接的に効果があります。2年生夏以降は受験勉強にシフトすることを考えると、受検を考える者は早めの取得をおすすめします。なお、2月に英語コミュニケーション能力テストを全員受験します。

夏期講習

7月後半に、国数英の3科目の夏期講習を行う予定です。講座のレベルは標準からハイレベルにわたります。演習的・受験的な内容であり補習的な内容ではありません。自分をさらに高める意欲を持って参加してください。申込みは夏休み前に、プリントにて詳細をお知らせし、売店にて申し込みます。

SSI (芝浦サイエンスI)

文部科学省「SSH (スーパーサイエンスハイスクール)」の指定校として開発したカリキュラムを学内プログラムとして再編し、本校独自の取り組みとして継続しています。1年次のSSIでは、数学、生命科学分野の特別講座を、今年度は

木曜日の放課後に実施します。形式は、文部科学省答申にある、アクティブラーニング（能動的学習）の考え方を取り入れた授業です。教員による一方的な講義形式の授業だけでなく、テーマ研究をポスターで発表するなど、生徒自身が考え、主体的に活動することを重視しています。さらに、希望者には、3月の関東近県SSH合同発表会や、9月の千葉大学主催高校生課題研究発表会でポスター発表をする機会もあります。

《中央教育審議会答申より》（アクティブラーニングについて）

「生涯に亘って学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である」

《学習指導要領 理科課題研究の目標》

「科学に関する課題を設定し、観察、実験などを通して研究を行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、創造性の基礎を培う。」

定員を超える場合には、申込み時に提出する志望理由書により選抜します。なお、実施日については、クラブ、行事よりこの授業を優先すること、途中でリタイアしないことが条件になります。

ターキー（JEM コンテスト）

本校では毎週LHRの時間に、国英数（J/E/M）の単語、計算などの小テストを行っています。継続的な学習姿勢を身につけることを目的としています。本学年ではより意欲的に学習に取り組むために「36期ターキー（JEM コンテスト）」として、楽しい企画にしていこう予定です。

定期試験指導

定期試験、模擬試験終了直後に、次の目標と日頃の学習を具現化する「目標達成シート」を作成いたします。こうしたシートを、ご家庭のよく目にする場所に掲示するようご協力ください。そのほか、試験2週間前記入、教室掲示の「有言実行シート」により目標を持ってテストに向けての学習を試み、試験直後にその日の試験の解き直しを行って自分の長所や苦手な部分を確認するなど、今後の学習に活かしていく「パーフェクトプロジェクト(P.P)」を実施して参ります。

大学受験と文理選択

本校では、2年次より文理選択を行うため、12月までに進路をおおまかに決める必要があります。次回の保護者会が秋ですので、そこまでに生徒の学習成果がすでに問われる状況が生まれます。進路講演会が7月4日に設定されています。ここでは、今後の進路選択のポイントなどをご説明いたします。

上記の行事もありますが、高校生活の始まりにおいて今後の流れを概観する意味からも、簡単に現在の彼らに求めることを大学受験の方式とともに触れておきます。

「とりあえず理系」の怖さ

理系から文系に転じることを「文転」という言葉で呼ぶように、文系から理系には実質的には無理なのですが、理系から文系に転じることは確かに可能で、若干ではありますが3年次の選択において変更する生徒もみられます。

しかしながら、単純に判断を引き延ばすことにはリスクが伴います。たとえば、どの科目にも真剣に取り組み、苦手科目がない生徒が、進路に合わせて文系に転じるのは可能でしょう。なぜなら、文系の受験は、国語、英語に加え、社会か数学を主要科目で用いますから、理系で数学を学んでいるなら、遅れている社会の代わりに得意な数学で受験することが可能だからです。しかし、「理系に興味をもちながら数学に苦手意識のある生徒」が「とりあえず理系」に進学した場合はどうでしょう。もちろん、理系で行く覚悟が決めれば何の問題もないのですが、そういう生徒が「文転」するのは、間違いなく、理系科目を克服できなかったからです。つまり、数学が使えず、国語や社会で大きく遅れがあるというのは受験において、大きなリスクです。

つまり、これから夏休みをはさむ6ヶ月は、「好きだけど苦手」な科目を「実際にやって」「克服できるか判断する」大事

な時期です。「やってないからできないので、やればきっとできる」と考えるほど怖いものはありません。逃げの発想です。ですから、この4月にこのような話をする必要があるのです。

国公立大学と私立大学

一般に国公立が難関と捉えることが多いようです。しかしながら、現在の受験状況において、必ずしも国公立が難関であるわけではありません。多様な受験システムについては、このあとで説明しますが、一般受験だけにかぎると、次のようになります。

- 国公立・センター試験（5教科7科目）＋2次試験（主要3or4教科、小論文）
- 私立・主要3科目（文系は英数・数or社、理系は英数理（1科目or2科目））

つまり、圧倒的に国公立の方が負担を感じます。結果として中位から下位の生徒ほど、負担を減らすために、私立に流れやすく、埼玉大、茨城大あたりの国立大学は比較的合格が容易という状況が生まれているのです。成績が優秀かどうかではなく、まじめに取り組むこと、具体的には7科目を高3から取り組みなおすことは不可能ですので、1年次から様々な科目に取り組む生徒には国公立の道が開けているのです。

絞れば、私立が有利になるかといえば、そう簡単ではありません。国公立受験者は当然、私立でも合格を確保しに受験をしますし、もともと私立に流れた層と合わせて激戦りになります。特に理系の早慶で合格を勝ち取るためには旧帝大、東工大を目指す層と競いますので、科目を絞れば合格が取りやすいという考えは非常に甘いものです。

安易に科目を絞ると、結果として理科大、芝浦工大を第一志望と決めていることになります。芝浦工大は就職を考えても自信を持って勧められる大学ですし、理科大を第一志望にするのなら、芝浦工大を真剣に考えるべきだと思います。しかし、大学を意識せず、好きな科目しか取り組まない姿勢から、結果として自分の意識しないところで、芝浦工大が第一志望になるようでは困るのです。

また、早稲田をはじめとする難関大ではセンター利用入試で、国公立受験者を志願させるために5教科の入試を課している場合があります。したがって、早稲田第一志望から始まる場合も、国公立シフトで捉えた方が受験機会を広げるのです。

入試の種類

毎年、変化しているといってもよい受験状況ですので、昔の常識、難易度は一切通用しません。現状においては、毎年のように変更がありますので、現在の状況が3年後も続くという保証はありません。

指定校推薦

本校の卒業生の結果によって、大学より枠が与えられるものです。大抵の場合、評定平均によって選考を行います。今ある枠が3年後にあるかわかりませんし、どんなに基準を満たしても、校内で選考しなければいけませんので、基本的に指定校推薦に期待することは絶対にしないでください。

公募推薦・AO入試など

推薦とありますが、指定校と異なり、「応募資格」に評定などの制約があった上に、小論文、面接、学科などの試験が課される実質の0次入試です。資格があれば受かる、あるいは受かりやすいわけではありません。こうした入試を突破するためには、学部学科に関わる広い教養、学部学科に関わる実績（webコンテスト、論文、講演会、体験の有無など）、日頃の学習評定など多角的な要素が問われます。

センター利用入試

私立大学がセンター試験を利用して合格者を確定する入試です。すべての大学で行っているわけではなく、また、大学の中でも行っている学科、行っていない学科があります。科目も難関大ほど多く、また少ない科目数の大学、方式ほど高得点率が求められます。センター試験の結果が、出願した大学すべての結果に使われますので、センター試験の失敗がすべての不合格につながる入試であり、この入試だけにかけることは大きなリスクを伴います。

一般入試

各大学がそれぞれ実施する昔ながらの入試です。少子化に加え、入試の多様化は一般入試の定員減にもつながっていますので、科目数を安易にしぼることはその意味でも危険のあることです。

[学習関連行事]

※は、希望者参加のものです。その他は原則全員に実施するものです。

| | | |
|-----|--|------------------------------------|
| 4月 | スタディサポート第1回 | 自学自習研修 個人面談 |
| 5月 | 河合塾 第1回全統模試 | |
| 6月 | 中間試験 駿台 第1回駿台全国模試※ 英検・漢検※ | |
| 7月 | 7月考査(5教科) 第1回進研模試7月※ 数検※ | 進路講演会 芝浦工大学科説明会 個人面談 夏期講習 |
| 8月 | 河合塾 第2回全統模試 | 夏期講習 |
| 9月 | 期末試験 | |
| 10月 | スタディサポート第2回 駿台 第2回駿台全国模試 英検・漢検・文検※ | Web コンテスト 入試説明会 |
| 11月 | 河合塾 第3回全統模試※ 第2回進研模試 数検※ | 個人面談・文理選択 |
| 12月 | 中間試験 | |
| 1月 | チャレンジセンター 第3回進研模試 河合塾 全統高1記述模試※ 英検・漢検・文検※ | |
| 2月 | 駿台 第3回駿台全国模試※ GTEC 数検※ | |
| 3月 | 学年末試験 駿台高1全国マーク模試※ スタディサポート第3回 | |



芝浦工業大学推薦入学候補者の選考について

○選考方法について

1. 選考基準

生活・学業・人物のあらゆる点で本校生徒としてふさわしい者

次の条件を満たさない者は推薦されない。

I 理系を選択している者。

ただし、履修した科目により、進学できる学科に制限がある。

A 数学

数学Ⅲを履修した者。ただし、システム理工学部生命科学科については3年次数学ⅡB演習履修者でも構わない。

※生命科学科生命医工学コースは数Ⅲ履修がのぞましい。

B 理科

3年次の理科の選択によって、以下の学科に出願できる。

物理・化学選択者…全ての学科に出願できる。

生物・化学選択者…応用化学科・材料工学科・生命科学科・数理科学科に出願できる。

物理選択者…応用化学科を除く全ての学科に出願できる。

化学選択者…応用化学科・材料工学科・生命科学科・数理科学科に出願できる。

生物選択者…生命科学科に出願できる。

II 全教科の3ヵ年の評定平均が100段階で50以上の者。

III 3年次12月の時点で欠点がない者。

IV 学校から特別指導を2回以上受けたことのない者。

V 3年次12月の時点で欠時1/10超過が1科目もない者。

次の条件を満たさない者は推薦されないことがある。推薦される場合には、その基準を大きく下回ってはならない。

VI 各学年末において、特に理由なき欠席・遅刻・早退の合計が10回を超えない者。

VII 数学・理科・英語、3ヵ年の評定平均の3教科平均が100段階で60以上の者。

2. 志望学科の選択

工学部11学科とシステム理工学部5学科とデザイン工学部1学科（3領域）より、第3志望を限度に選択する。

3. 選考について

- ①高校3年次12月に行われる卒業試験の英語（コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現）、数学（数Ⅲ、又は数学演習（農科））、理科の各教科の成績の合計
- ②高校3年間の評定の合計

①に関しては、推薦希望者中における英数理各教科の偏差値平均の合計数字（ α ）
②に関しては、各学年の評定の推薦希望者中における偏差値を合計した数字（ β ）
を採用し、これらの合計数字（ $\alpha + \beta$ ）をもとに選考を行う。

また選考に際して、次の各項を考慮あるいは参考とする。

- I 出願する学科への明確な志望意識を持ち、学科への適性に優れていること。
- II 学校生活において、委員会活動・部活動などに真摯に取り組んだこと。
- III 3年間皆勤または精勤の者。

4. 二期募集

工学部11学科とシステム理工学部5学科とデザイン工学部1学科のいずれかに欠員が生じた場合募集が行われる。その場合の選考は3.の選考方法に準じて行うが、筆記試験と面接を実施する。

筆記試験は英語、数学、理科で、数学はシステム理工学部生命科学科については、数学ⅡBまでの内容。他の学部学科は数学Ⅲまでの内容とする。理科については、工学部応用化学科は化学指定。システム理工学部生命科学科は物理、化学、生物から1科目選択。他の学部学科は物理、化学より1科目選択。

面接試験は学科の志望理由などを中心に行い、これを重視する。

単位認定と進級・卒業の規定

〔進級判定基準内規（高等学校）〕

1. 評定および単位の認定基準

- (1) 評定は100段階とする。
- (2) 評定は、定期考査の成績を中心とし、小テスト、課題、出席状況、授業中の態度や学習への積極性等を加味して総合的に行う。
- (3) 単位の認定
 - ① 評定点が40以上であること。
 - ② 各科目の年間出席時間数が授業時間数の90%以上であること。但し、イ、ロを除く。
 - イ) 負傷や病気等で欠席が長期にわたり医師の診断書が提出されている場合、および特別な事情を進級判定会議で認められた場合。ただし、いずれの場合も各科目の年間出席時間数が授業時間数の3分の2以上であること。
 - ロ) 各科目の年間欠席時数が出席すべき授業時間数の10%を超えた時に、進級判定会議の決定に基づき、補講や課題等を課して単位が認定された場合。

2. 進級および卒業判定基準

以下の条件の者は進級保留者とし、春休みの所定の期日までに所定の条件を満たして、単位が認定された場合に進級を認める。所定の条件は進級判定会議で決定する。

- イ) 評定点39以下が2科目を超えていない者。
- ロ) 各科目の年間の授業欠席時間数が、1科目でも出席すべき時間数の10%を越えた者。

学年末において、全科目の評定点平均が極端に低い者を特別指導生徒とし、春休みの特別指導について進級判定会議で審議する。

行事について

自学自習研修

本校では、1年次に自学自習の意義を理解し、自ら積極的に学習に取り組む姿勢を身につけることを目的とした研修を実施しております。今年度は4月22日～23日の実施を予定しております。

持ち物は、制服（正装）、学習用具、文房具、パジャマ類などです。特別にご用意いただくものはありません。詳しくは、自学自習研修のしおりをご参照ください。

オーストラリア研修旅行

本校では、2年次にオーストラリアの姉妹校であるリディーマー校との交流を軸にした研修旅行を実施しております。大自然に囲まれた環境の中で現地生徒との交流による異文化理解、英語によるコミュニケーション能力の育成を目指します。為替レートやサーチャージ、治安状態や国際情勢、伝染病などの情報を集めながら、安全に留意して実施してまいりたいと考えております。

保護者の方へお願い

欠席・遅刻の場合は、必ず保護者から学校へ連絡を入れて下さい。

高校1年生 直通番号 : 04-7174-4097
連絡時間 : 7:45 ~ 8:00



(7:00~7:45 は学校代表にご連絡下さい・・・04-7174-3100)

- ※ 8:00より、教員の打合せを行いますので、上記時間内に御連絡くださいますようご協力よろしくお願いたします。
- ※ 事前に欠席遅刻早退等が分かっている場合には、生徒手帳の「諸届・許可欄」へご記入・ご捺印の上、担任へ提出ください。



今後の予定

4月

- 13日(月) スポーツテスト、学習ガイダンス、LHR(合唱祭選曲話し合いなど)
【ジャージ・Tシャツ・外用運動靴・昼食が必要です】
- 14日(火) 平常授業開始
- 16日(木) 歯科検診
- 20日(月) 内科検診(半分のクラス)
- 22日(水)～23日(木) 自学自習研修(宿泊)
- 24日(金) 授業なし・自宅学習日
- 27日(月) 内科検診(半分のクラス)
- 30日(木) 球技大会(授業なし)

- 5月 1日(金) 球技大会(授業なし)
- 7日(木) 耳鼻科検診、教育実習開始(～23日)
- 19日(火) 合唱祭(柏市民文化会館)
- 25日(月) 河合模試
- 30日(土) 生徒総会
- 7月 6日(月) 学年経費、学費(第2期)、バス定期代金引き落とし



夢実現のための十則

- 夢を持って。ない夢はかなわぬ。目標なく一生懸命やることに酔うな。
- やることを与えられるな。自分のために創り出し、形にして期限を決めよ。
- 他人と関われ。他人を理解しようとしろ。他人に理解される努力をしろ。
- 挨拶をせよ。人に気付き、人に気付いてもらえる。
- 毎日他人に奉仕しろ。心がきれいなら他人も応援してくれる。
- 話を聞く姿勢を作れ。聞く人には教えたくなる。助けたくなる。
- 書け。何度でも書き直せ。書かないことは考えていないこと。
- 自分と戦え。自分は見ている。人と戦うな。気にするな。自分が変われ。
- 大事なことは最初にやれ。優先順位を考えろ。タイミングを逃すな。
- 成功を繰り返し、失敗を繰り返さぬよう分析しろ。原因を五回さかのぼれ。